

## 2. キャトルステーションにおける呼吸器病対策

豊後大野家畜保健衛生所

○（病鑑）菅正和、原彰宏、安達聡、  
手島久智、（病鑑）佐藤亘

### 【はじめに】

管内T市に所在するキャトルステーション（子牛共同育成管理施設）は、現在30戸の肉用牛繁殖農家が利用しており、約4カ月齢の子牛が毎月40頭前後搬入され、市場出荷まで飼養されている。これまで家保は、管理獣医師及び共済獣医師と共に当該施設の衛生対策に取り組み、事故・廃用は減少傾向にあったが、今年に入って呼吸器症状を呈して死亡する子牛が複数発生した。そこで、死亡子牛の病性鑑定を行い、新たな疾病対策を講じることとしたのでその概要を報告する。

### 【材料及び方法】

2023年4月から10月まで、呼吸器症状を呈して死亡した4頭の解剖検査、うち2頭の病性鑑定を実施。あわせて、死亡牛の同居牛12頭の呼吸器関連ウイルスの中和抗体検査を実施。

### 【病性鑑定結果】

- （1）死亡牛：全ての個体で重度の肺炎所見が認められ、うち2頭は牛呼吸器病症候群（BRDC）と診断。
- （2）同居牛：牛パラインフルエンザウイルス3型（BPIV-3）で2頭、牛RSウイルス（BRSV）で5頭、牛コロナウイルス（BCV）で10頭の中和抗体価の上昇を確認。

### 【疾病対策】

- （1）従来対策（搬入時対策）：搬入時に呼吸器病鼻粘膜ワクチン・抗生物質・クロストリジウム病ワクチン・駆虫薬・ビタミン剤の投与、耳介掃除・ペニシリン液の点耳を実施。また、体重測定、胸部聴診、体温測定、血液検査及び鼻腔スワブによるBRSV抗原検査を行い、発熱、肺雑音等が確認された個体は当該施設に受入れず、搬入元の繁殖農家にて治療。BRSV抗原検査陽性となった個体は、当該施設内の隔離牛房で2週間隔離し経過観察し、必要に応じ治療。
- （2）新規対策（搬入元農場対策）：従来対策に加え、呼吸器病対策として、搬入元農場における子牛への呼吸器病鼻粘膜ワクチン接種や周産期母牛へのワクチン接種による母子免疫対策を推進するとともに、搬入する子牛の斉一化を図るため、給与飼料などについても一定の条件を設定するなどの対策も提案。

### 【まとめ】

2019年7月から当該施設への搬入時対策を継続してきた。その結果、当該施設における事故・廃用頭数は減少傾向にあったが、本年は呼吸器症状による死廃が4件発生した。病性鑑定の結果、BRSVをはじめ複数の病原体の関与が疑われた。複数農場より搬入される当該施設においては、異常の見られる子牛を搬入させないことが重要と考える。今後、搬入時検査による衛生対策を継続するとともに、搬入元の繁殖農家への指導を強化し、さらなる対策を講じていきたい。